

家庭科の男女共修をすすめる会

会報

'85 冬

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11
婦人会館内 〒151

振替 東京九一 九一八九一

発行 一九八五年十二月二十二日

新段階の運動スタート!!

新しい署名運動が始まりますノ

新しい教育課程審議会で、いよいよ次の教育課程の審議が始まりました。この審議期間にどれだけ運動するかで共修が実現するかどうかが決まります。

校長会は積極的に動き出しました。(15ページ参照)。関係各団体の動きも活発になっ

技術科との共闘をノ

会では「家庭科も技術科も男女共修に」という考え方をとっていますが、技術科関係者の家庭科共修への理解はいまひとつ。(14ページ参照)。連帯へ向けての努力が必要です。

世話人会では、来年一月から三月までは署

て来ています。

十月十九日の集会で半田たつ子世話人はこれからの運動について提案、承認されました。(5ページ参照)。この提案に従って新しい署名運動を始めます。一月三十一日までに事務局へお送りください。

名運動と教課審への働きかけに力を注ぐことを決めましたが、四月の総会といっしょに、技術科との連帯をテーマにして集会を開くことにしました。ふるってご参加ください。そして、各学校、各地域でも話し合い、共闘をすすめてください。(総会は四月五日出)

もくじ

新しい運動スタート!!	(1)
一〇・一九集会報告	(2)
運動の提案	(5)
教課審委員住所	(6)
アンケート結果・続(ナイロビ)	(7)
日本大会報告	(8)
連絡会報告	(9)
いろいろな集会から	(10)
◆西歴二〇〇〇年に向けての全国会議	
◆川崎女性フォーラム85 ◆国際シン	
ポジウム「女は世界をどう変えるか」	
◆行動する会「学校はいつもボーイフ	
ァーリスト」◆都主催「女と男で創る21	
世紀」◆婦人問題懇話会フォーラム85	
女子だけ割烹着?!	(13)
新しいパンフをどうぞ	(13)
技術科関係者の考え方	(14)
世話人会報告	(14)
校長会のホンネ?!	(16)
尾藤操さんを悼む	(16)

★教育課程審議会委員にはがきを出しましょう。住所は6ページにあります。

一〇・一九集会

二〇〇〇年に向けての私たちの戦略

新教課審に求める

於・婦選会館

出席者はあまり多くなく、やや淋しい集会になりましたが、NGOフォーラム参加者の報告のあと、有馬真喜子さんは政府間会議について情熱的に報告、「二〇〇〇年に向けての婦人の地位向上のための将来戦略」の実行を呼びかけました。

報告についての簡単な質疑のあと、半田世話人が新段階の運動について提案、討論のあと、承認されました。

司会 青山和世 八島紀子
記録 梶谷典子

NGOフォーラム報告

(要旨)

まとめ・各報告者

★中嶋 里美

七月一日ナイロビ大学へ着いてすぐ、梶谷さんと私は私達のワークショップの場所に

下見に出かけた。途中で半田さんと娘さんに出会い四人でそこへ。

再びナイロビ大学へ戻り、梶谷さんの「始めましょうか」の声に押され、芝生に坐っていたカナダの人達に話しかけ、家庭科のアンケートにも記入してもらう。その後机をかりてのアンケート集め。私は共修の方と出席簿の男女順のアンケートの両方を行う。一五、一六日の午前中はずっと机の前に陣取り、いろいろな国の人と話することが出来た。ワークショップでの討論もすばしかったが、こうして一人一人の人と直接話を出来たのも熱気が伝わってきて楽しい交流だった。私はこんな会議が毎年は無理としても、三年に一回、最低五年に一回位開かれることを望む、勿論その為に役割を果たすこともしたいと思う。いつ迄も他国の女達の力で開催してもらっていいは申し訳ない。

私が五日間ナイロビ大学で過ごす中で感じたことは、女たちがこの世界を動かす中心部分に躍り出なくてはいけないということだった。

その為には平和、平等、発展というしっかりとした思想を持ち、それを具現化していける実行力を合わせ持つことが必要と感じた。私の二〇〇〇年への戦略はナイロビ会議に参加して決まった。

★和田 典子

和田、持田、本橋、藤本の4名は労働問題、女性史、法律、教育問題などの研究者グループに加わって、19名で出かけた。

NGOへのレポートは「男女共修をすすめる運動10年の経過と成果」のほか二本を準備しましたが、初参加者ばかりでしたので、ワークショップの実状がつかめないため、見当外れの部分もあったようでした。

「会」のレポートは①わたしたちの運動の目標②運動の内容と10年の歩み③組織④中・高家庭科の現行課程と批判⑤高校生の意識⑥教師・生徒の共修に対する意見⑦共修実施校の生徒の支持率など、をまとめたものです。

ナイロビへの到着が14日。ワークショップの割当を受けたのが17日でした。そこでその日までの三日間は、核兵器廃絶の国際署名を、他のグループとも協力して訴え、総計二五〇〇名の署名をとることができ、AALAとの連帯アピールでも成果をあげました。

★梶谷 典子

出かける前にはいろいろなことを云われま

した。「南北が鋭く対立する場に日本の女が行って何になる」とか、「日本の女の問題を第三世界の女たちの前でうたてても仕方がない」とか――

でも行ってみると、お互いの立場を考え合っただけという空気感で満ちていましたし、いろいろな国の、いろいろな問題をかかえた、いろいろな女が参加していることに大きな意味があると思いました。

男の家庭生活への参加が少ないことは各国共通の問題ですが、途上国では特に少く、生活を改善しようという女の努力を男が邪魔することもよくあります。せっかくつくった水道を男たちがこわしてしまったりという話も聞きました。女たちが水汲みの仕事から解放されて主張が強くなっているからさうです。

「男女の役割の変更」は先進国の問題だと考える向きもあるようですが、途上国でも重要なことだと思います。これからの発展が女を犠牲にしたものにならないよう、協力し合えたらと思います。

家庭科共修については日本独特の部分もありますが、教育によって男女の役割を変えて行くことについては共通理解が得られるものです。各国と情報交換しながら運動できればと思います。

★半田たつ子

ナイロビ体験は、余りにも多岐にわたる。参加者で「千一夜物語」を書かなければ、と思うほど。その一つがコミュニケーションの手段を豊かに持つ必要性だ。外国事情を読解して、文化を受け入れる時代は終わった。アフリカから売られた奴隷の子孫と自ら語った黒い膚の人が「私はアメリカ人だが、むしろ世界女性だ」と胸を張ったシーンを鮮やかに思い出す。世界の一人として生き、夢を理想を語り、意見の違いを論じ合う時、駆使すべ

ナイロビ会議の 報告を聞いて

八島 紀子

国連婦人年の最終年の世界会議。行きたかったけど、どうしても行けなかったのが、楽しみにして集会にのぞみました。

中嶋さんの報告で、外国では女性の集会などに政府から資金の援助が出ている。日本においても、政府から資金を出させていかねば、そして、政治に女たちが参加していくべきという話を聞き、二〇〇〇年に向けて、新しい運動の展開の必要さを感じま

き会話力を、私たちは持たない。どんなに英語の成績がよくても、生きて働く力にならない。語学教育を改革しなくては、自分で求めてその力をつけなくては……。

もう一つ、日本人は青白きインテリだ。教育レベルは高く、センスもよくお金持ち。批判力は鋭い。しかし、責任を負うことをきらい、行動はしない。自分が傷つくことに過敏だから。これではどうしようもない――私は私に、こう言いかけ帰国した。

した。それとアフリカの黒人の女たちの堂々とした姿、発言する力強さの話を、感動しました。

半田さんが、これからは英語で議論できなければ、これから国際会議に出ても意味がないのではという話を聞き、自分の会話力のなさを痛感し、これから、勉強しなくてはと心に決めました。そして、何と言っても、第三世界の女性たちの力のすばらしさがナイロビ大会で発揮されたと報告があった時、みんなで連帯すれば、何でも可能になるのだとうれしくなってきました。

有馬さんのお話（要旨）

一か月ケニアにいて、主として政府間会議の取材をしました。

メキシコの会議はたいへん華やかでしたが、今回は実務的という感じで、代表の女性も単にファーストレディーだからというのではなく、実際に婦人問題をやっている実力者。メキシコの時は女が主席代表だった国は三分の一、今回は八割以上の国で女が主席代表。やはり10年が変わったと思いました。

各国代表が演説しましたが、途上国の人は貧困をなくす必要を強調、貧しい中で女の子は教育のチャンスが奪われ、文盲の人の80%が女だと報告されました。

先進国の多くは、男女平等が進んで来たことを報告しましたが、政策決定ポスト、政治の分野への女の進出ということが焦点になっているようでした。

会議で一番大きなことは「二〇〇〇年に向けての婦人の地位向上のための将来戦略」の採択。これは75年の「世界行動計画」、80年の「国連婦人の10年後半期行動プログラム」

と基本線は同じですが、より整理されてわかりやすくなっており、三つの特徴があります。①10年の間に、婦人たちの「障害」が何であるかはっきりした。②対象とする婦人の範囲をひろげた——主婦労働の評価、新しい科学技術の中で働く婦人、サービス業で働く婦人、高齢の婦人、紛争地域の婦人など。③政治問題をさげすみにこんだ。

戦略は5章に分れています。①平等 ②発展 ③平和 ④特殊な状況の婦人 ⑤国際及び地域協力。4章以外は同じ構成となり、A障害 B基本的戦略 C具体的措置となっていて、4章は若い女性、難民、パレスチナ人といったような項目に分れています。

戦略は満場一致（コンセンサス）で採択されました。80年の「後半期行動プログラム」は先進国の多くが棄権したまま多数決で採択された結果、十分機能していません。それで今度はぜひ投票なしで、コンセンサスで決めようということになったのです。

しかし結局、アパルトヘイト、パレスチナ、新国際経済秩序、大国の経済支配の4つの問題については投票が行われました。

一番もめたのは「婦人の地位向上を妨げること」の中にシオニズムを入れるかどうかでイスラエルはもちろん反対、アメリカも反対

の立場で活発に発言、このことばが入るならアメリカは代表団を引きあげるのではないかといいうわさが流れました。

最終的に、シオニズムということばの代りに「あらゆる形態の人種差別主義」ということばを入れることでコンセンサスが得られましたが、これは主催国ケニアが途上国を懸命に説得したからでした。途上国で会議が開かれていたからこそできたのです。途上国はイザという時結束する力があるのではないかと思います。

日本は国連外交では割合第三世界と歩調を揃えています。「後半期行動プログラム」の時も、西側の多くの国は棄権したのに日本は賛成、今回もアパルトヘイトの問題でアメリカが反対（南アは不参加）、西側十三カ国が棄権にまわった中で、日本は「賛成」と発言して大拍手を受けました。

将来戦略の修正されたあとの全文はまだ発表されていませんが、全体をよく見て（発表された「概要」は大事なところが落ちていたので）二〇〇〇年に向けて忠実に実行したいものです。政府にも要求し、私たちも実行しましょう。

（まとめ・梶谷 典子）

運動の提案

半田たつ子

今はなき市川房枝氏のきも入りで、「家庭教育検討会」が、婦人会館で開かれたのは、一九七三年十二月八日でした。十二年間の運動がいよいよ果実をつけようとしているのです。その果実は甘いのか、酔っぱいのか、はまた苦いか。

昨年十二月十九日に出た「家庭教育に関する検討会議」の報告が、女子差別撤廃条約批准のための体裁を整えたものにすぎないにせよ、報告には、高校「家庭一般」は「男女とも」「選択必修」、中学「技術・家庭」は「すべての生徒に共通に履修させる領域と生徒の興味・関心等に応じて履修させる領域を設けること等について検討する」と明記されています。この報告を新しい制度に生かす教育課程審議会が発足したのです。答申は88年六月に予定されています。あと三年足らずで、私たちの運動が、私たちの願う果実をつけるかどうかが決まります。いよいよ、です。

私たちは、運動の戦略を次のように立てました。

*****今こそ運動を！ 主役はあなたです*****

一、文部大臣あてに、家庭科の男女共修を要請、大々的な署名運動をくりひろげる。

「署名用紙」を同封しました。会員の皆様、コピーして枚数をふやし、この大運動をすすめて下さい。一月三十一日までに、事務局にご返送いただければ幸いです。

二、教育課程審議会委員あてに働きかける。委員の連絡先を、次頁に掲載しました。全会員の方たちにお願います。出身地、出身学校その他、かすかな縁も生かして、委員にはがきを出して下さい。家庭科はなぜ共修でなければならないか。具体的にどのような成果を挙げているかなどを、委員に知らせて下さいますように。

三、教課審委員あてに、「会」で作った諸パンフ、リーフレットなどを、紹介文と共に送り（送付する）、面会して趣旨を訴える。

四、文部省が今後どうすすめるようとしているのか、国会議員を介してレクチュアを受ける「会」からも質問し、要望する（江田五月氏が機会を作ってくれたが、都合で流れ残念。再度チャンスを作る）。その際、すでに集まっている署名を持参します。

五、技術科との共闘を働きかける。

日本家庭教育学会では、「家庭教育85—21世紀に向けて—」として、「男女ともに長い人生を幸福に過していくため」の家庭教育について見解をまとめました。(1)小学校では低学年から独立した教科として (2)中学校では男女共に、生活のための学習の機会を必修で (3)高等学校では、社会の変化に応じた生活に男女共に創造的に取り組ませる、というものです。

教員養成系の国立大学技術・職業・職業指導部会合同シンポジウムで、検討会議委員の一人鈴木寿雄氏は、小学校家庭科を改組して技術・家庭科にしたい。高校家庭一般を必修にするなら技術一般も六単位程度必修にすべきである、との考え方で委員として努力したと言っています。

遅まきながら他の団体に火がついたというのに、共修運動の燃え上がりは、もう一つ、です。いま力と声を集めなければ。いまこそ十二年間の活動を生かさなくては。共修運動の主役はあなたです。

教育課程審議会委員住所

青木生子	渋谷区富ヶ谷1-30	〒151
秋山和夫	倉敷市藤戸町天城2-37	〒710-01
東洋	町田市玉川学園3-13	〒194
江副浩正	港区南麻布3-11	〒106
冲原豊	広島市東区牛田新町3-27	〒730
奥田真丈	豊島区雑司ヶ谷3-16	〒171
小田島哲哉	杉並区善福寺3-12	〒167
木村尚三郎	横浜磯子区森6-25	〒235
栗原一登	杉並区永福1-39	〒168
幸田三郎	世田谷区桜上水1-28	〒156
佐藤愛子	世田谷区太子堂5-24	〒154
鈴木誠太郎	川崎市多摩区寺尾2-6	〒214
田村哲夫	(勤務先) 渋谷区渋谷1-21	〒18
西原春夫	町田市能ヶ谷619-6	〒194-01
縫田肇子	渋谷区代々木2-37	〒151
畑中良輔	杉並区今川2-2	〒167
広中和歌子	京都市左京区高野竹屋町50-1	〒606
福井謙一	京都市左京区北白川平井町23	〒606
船木哲	宮崎市小松台北町5-5	〒880-21

古橋広之進 世田谷区野沢3-9-11 〒154
松田岩男 (勤務先) 名古屋市昭和区八事 本町101-2 中京大学 〒466

村井実 世田谷区成城6-30-16 〒157
諸井虔 中野区中野2-16-28 〒164
諸沢正道 渋谷区広尾2-13-14 〒150
森隆夫 練馬区貫井3-52-10 〒176
柳下昭夫 練馬区大泉町2-26-16 〒177
山口薫 武蔵野市吉祥寺南町1-27-1 〒180
バインクレスト411

(職業・専門等については秋号をご覧ください)

討論から

半田世話人の運動の提案(5ページ)のあと討論に入りましたが、まず家庭科というところが問題になりました。

「内容を変えるのだと説明しても、家庭科というところでも古いイメージで捉えられ」「縫いものというイメージで抵抗を感じる」「特に男の人にはピンと来ないらしい」という意見が出され、「生活科学としてはどうか」という提案がありました。

これに対する半田世話人、中嶋世話人の答をまとめると――「教課審が発足した今、この時期を逃さないようにしなければならない。」

う・わ・さ

次の世界婦人会議(五年後か、七年後か?)はアジアで――多分東京で開かれるだろうといううわさがあります。東京で開かせるように運動しようという声もあります。そうすればもう少し婦人問題への関心が高まるだろうという理由で、皆さんはどうお思いですか?

教科の名前を変えようとすると、免許等の問題もからんで時間がかかってしまう。まず今使われていることばで運動をすすめてよう。

次に、消費者教育と家庭科との結びつきを考えようということが話し合われました。

また、男性をもっと運動にまきこむべきだという意見に対して、渋谷世話人はリーフレット「男から男たちへ」を利用しようというよびかけました。

家庭科の内容を問題にして行かなければならないということも、参加者に共通した考え方でした。

最後に、署名用紙の要請文に、家庭科とはどういう教科かを示すことばを入れることを決め、運動の提案は拍手で承認されました。

(まとめ・梶谷 典子)

家庭科教育についてのアンケート結果(続)

――ナイロビ大学に集う世界の女達の声――

中嶋 里美

秋号の「アンケート結果」の続きです。

六、家庭責任をもっと男性が受け持つようになるための最良の方法は何だと思いますか。

ケニア……男性に家庭責任について教育すること。

アメリカ……共学で家庭科を教えること、また女達は「結婚したいなら女は家事をしなければならぬ」という考え方を受け入れる必要はない。男が自発的にかわることはないので、彼等は強制的にやらされる必要がある。

カナダ……カップルの中の仕事をきめる時夫にはこれ迄やったことのない仕事をするように仕向ける。

ノルウェー……新しい役割モデルや役割分担にとらわれない教科書や、父母を通じて変える。

イギリス……家事の尊厳と重要性について社会的にキャンペーンをはる、洗剤などの商品を宣伝する時、洗濯をしている男性を出すように変えること。

オランダ……女性には家庭の中で自分達の要求を強く主張すべきである。時にはあらゆる家事をするのを拒絶しなければならない。

オーストラリア……家庭で働いている男性という考え方を定着させる為に資金を出してもらってキャンペーンをする。

七、男性と女性との関係について他に自由にお書き下さい。

ケニア……男性は一般的に非常に男権主義的で女達もそれを非常に従順に受け入れてしまっている。これを打ちくだく教育が必要。

アメリカ……教育を受けた人々の間ではあきらかに男女の関係がよくなっている。

カナダ……あらゆるものももう一度やり直さなければならない。そして

愛の関係、愛に動かされやすい関係こそがまず第一の間違ひである。

ノルウェー……ノルウェーにおける一〇組の離婚のうち一つは女性達はなんとか一人でやっていけ、男性からの援助を受けていない。

イギリス……女性に対する男性の暴力に非常に関心を持っている。特に妻をなぐるということに。それは世界の問題であるようだ。

ザンビア……男性はある問題が自分に都合の時はとても協力的である。

オランダ……女性を家庭から解放するために保育所がとても必要とされている。

要。

★新しい段階を迎えてあなたの地域ではどんな動きがありますか? おしらせ下さい。

国連婦人の10年 日本大会報告

馬場 洋子

十一月二十二日午後十時半から、日比谷公会堂で「国連婦人の10年日本大会—平等・発展・平和・二〇〇〇年にむけての行動」が「国際婦人年日本大会の決議を実現するための連絡会」主催で開催された。鍛冶千鶴子氏の基調報告。来賓あいさつは、藤波官房長官、中西珠子国連婦人の10年推進議員連盟副会長、藤田たき婦人問題企画推進会議座長。近く十八歳になられる藤田氏の車椅子からのメッセージは心打った。四〇年前、婦人参政権を得、初めて一票を投じた時の心たかぶる思い、今一度、一票の重みを考えてもらいたい、48団体のさらなる連帯、協力による活動をと。演台に48団体代表が並んでいる姿は、さすが迫力があつた。

国際婦人年日本大会の 決議を実現するための 連絡会報告

和田 典子

★国連婦人の10年日本大会開催にむけての準備

11月22日開催の日本大会にむけて、連絡会ではその準備に追われました。

①大会プログラム→山家和子（母親連絡会）安藤はつえ（有職婦人クラブ）和田妙子（YWCA）梶谷典子（共修の会）のほか、専門家として松岡励子氏の協力を得て決定。

②問題領域別委員会報告→教育・マスメディア、労働、家庭・福祉、政策決定参加、平和・国際協力の五領域にわかれて3回以上討議を重ねたものを責任者がまとめ、五領域をつき合わせるための全体討議を2回行った上で起草され、プログラム資料に掲載されました。

③基調報告と宣言→鍛冶、大羽世話人、決議は小委員会でもとめ、全体討議にかけて決定し、決議と宣言は当日参加者に配布しました。

④大会当日のプログラム資料は↓大会関係資料、連絡会及び参加団体資料など集録し、

フロアからの提言、決議・宣言の採択があり、三時に閉会、約二千人が参集した。その後、東京駅までデモ行進。

会としては「教育・マスメディア」で和田さんが報告。CMの「私つくる人、僕食べる人」から、僕も私もつくる人、食べる人への寸劇。杉並区大宮中学校で共修の授業を受けた岩城君に登場してもらい、インタビュー。大会黒一点の出演で大いに説得力があった。その他、75年80年85年の全国小学校長の男女比をあげ二〇〇〇年には50%ずつにと訴え、ボルノ雑誌のはんらんを挙げ、約20分を演じた。

48団体が一体となって大会を盛りあげるこの難かしさを思う。それをやりとげた女性のすばらしさ、すすめる会で48団体との交渉を一手に担当した和田さんごころうさま。

今後、48団体は新しい団体を受け入れていくという。すすめる会にも言えることだけれど若い世代の参加が切に望まれる。運動が引きつがれ活性化されるためにも。そんなことを大会を終えて思った。

大会決議のうち共修に関係の深い部分は次の通り。

一、二〇〇〇年をめざす行動の重点として

- 9 人権尊重は平和維持の基本であり、女性に対する差別は人間の尊厳に対する侵害であるとの考え方を確立するため、人権尊重の教育に力を入れること。また男女平等を教育の基本にすえ、女性に対する教育機会の拡大、平等を保障する条件づくりを促進すること。
- 二、重点にもとづく具体的施策、活動として
- 1 女性の全面参加をすすめるために（略）
- 2 男女平等の教育をすすめるために
- (1) 男女共学をいっそう進めるなど女性に対する教育機会の拡大・平等を保障する条件づくり、特に中学・高校での家庭科教育の共学・必修、技術・職業・労働教育の小・中・高での共学・必修を行うこと。
- (2) 男女平等をすすめる教育内容の改革を行うこと。
- (3) 女性の社会参加をすすめるための教育の拡充を行うこと。
- (4) 男女平等の視点から教育行財政の見直しと拡充・整備を行うこと。
- 3 女性の労働の権利を確立するために（略）
- 4 社会保障、家庭の福祉確立のために（略）
- 5 マスメディアに関して（略）
- 6 平和と国際協力のために（略）

★日本大会終了後の行動

①関係方面への要請行動
大会で採択した決議、宣言文書を団体代表と世話人が手わけして、関係省庁、団体を訪問して要請します。

②雇用機会均等法——ガイドライン策定についての対応
12月7日に、全体会をひらき、大会の総括を行いました。集会后、労働省関係官を招き、現在策定中の、女子保護に関するガイドライン案のヒアリングを行いました。（詳しくは次号）

●大会に参加された方からの感想や提言をおまちしています。

国連婦人の10年日本大会に参加して

持田 ナミ

ドン張が上った。半円型に着席した団体代表48人の女性が現れた。明るく、美しい開会である。

88歳の藤田さんは、車椅子を舞台の端まで進めて、誤りかける、会場は物音一つしない。心に浸みる挨拶だ。

「48団体」の歩みを展開させるスライド、市川房枝さんの美しいお顔がクローズアップされて迫ってくる。

被爆された方の平和の訴えが胸をうつ。フロアーから、二千年に向けての提言が確信のある声で次々に続く。

平等、発展、平和を基に、48団体が十年間困難を乗り越え築きあげてきたこの大会を演劇にたとえるならば、演出も構成も役者も客席と一つになった芸術作品である。

「日本大会」という劇に魅了された一日であった。

いろいろな集會から

川崎女性フォーラム 85

婦人問題企画推進本部主催
「西暦二〇〇〇年に
むけての全国会議」
—国連婦人の十年最終年—

10月14日、九段会館で全国から参加者を集めた集會がひらかれ「すすめる会」からは、半田、和田の2名が参加しました。

開会式では中曽根首相、来賓のあいさつにつづいて婦人関係功労者二十五氏の表彰がありました。政府にとつての「功労者」が主流で、失望させられました。

午前中は、世界会議の政府関係出席者からの報告、午後はシンポジウムで、会場は満席の盛況でした。

森山真弓政府代表は、會議の概要を紹介したあと、①世界の經濟情勢の把握をめぐって先進諸国と途上国との間に不一致があったこと②アパルトヘイト、シオニズムの用語についても一致せず最終日の深夜までもめた経過を話し、妥協が成立して全会一致で「二〇〇〇

〇年にむけての将来戦略」を採決できた「終りよければすべてよしだ」と結びました。

つづく縫田暉子代表は「戦略」の枠組み、視点、問題点について解説を加え、二〇〇〇年までもう一度世界婦人會議をひらくことを決めたと報告しました。

赤松良子代表は「将来戦略」立案の第一委員会の審議状況を、山崎倫子民間代表はNGOフォーラムの規模やワークショップの内容、日本勢の状況と今後の課題などを提言して午前の日程を終りました。

午後は、樋口恵子氏の司会で「西暦二〇〇〇年に向けて平等、発展、平和の一層の発展のために」のシンポジウムがもたれました。

講師は、48団体から世話人の大羽綾子、上智大学教授緒方貞子、ソフト化經濟センター専務理事日下公人、大和証券研究所理事長宮崎勇の各氏で、今後の社会変化をみ通しての女性をめぐる情勢の予測と課題が出されました。フロアからの発言は、切実な現場の問題が多く、理念的な講師の提言とはかみ合わないままで時間切れに終り、情勢のとらえ方の格差が印象にのこりました。 和田 典子

10月18・19日両日、川崎市の女性フォーラムが、市立労働会館、市立産業文化会館で開かれた。一日目は、永井路子さんの講演や、芹洋子さんの歌などのエンタテインメントによる全体会。二日目は、教育、労働、社会参加と婦人行政、高齢者問題、平和の五つのテーマによる分科会で、「21世紀を展望するかわさきの女性行動計画」を柱とする全国の交流会という催し。

あいにく、共修をすすめる会の例会と重なってしまったが、世話人の持田先生が実行委員でいらっしやったので、私は教育の分科会の助言者として参加した。

できるだけ参加者の声を聞くために、教育の分科会を更に三つの分科会にわけて、二〇名、三〇名の小グループで活発な討論が行われた。午後は三つの分科会が集って午前の討論の報告と意見交換。他の二つの分科会の助言者は千葉大の天野正子さん、朝日新聞記者の佐藤洋子さんだった。

私の分科会の司会を持田先生。はじめに差別撤廃条約と、性別役割をめぐって、家庭科

の男女共修や、学校の中の男女役割、教科書の中の性差別などについて私が提起したが、討論の中で「男女の特性—らしさ」はやはりあるのではないか、という発言をきっかけに、「男らしさ」「女らしさ」ではなく、一人一人の「自分らしさ」が大切なのだ、という話し合いが展開された。今の学校教育が、その「自分らしさ」——個性を否定する画一化に陥り、さまざまな問題を生んでいること、臨教審の競争の自由化への批判、先生を含めて、学校が管理される場となり、教師・親・子どもが分断されていく状況などが次々と出された。参加者の一人が最後に発言した「きれいごとでない、本音の話し合いで自分がまず変わることが、社会を変える第一歩だ」という言葉が印象的だったし、たしかにこの討論でその第一歩が踏み出されたことが確かめられた熱っぽい分科会だった。

駒野 陽子

朝日新聞社
朝日イブニングニュース社 主催
国際シンポジウム
女は世界をどう変えるか

10月23・24・25日三日間、東京・有楽町朝

日ホールで、世界五ヶ国の学者、文化人八名をパネラーに、シンポジウムが開かれた。

第一日議題「女性の地位」「差別の構造」第二日議題「女性原理と男性原理」「家庭と子ども」——この討論をうけて、最終日は「21世紀への戦略」という議題で、今までの女性差別の要因となる問題提起があり、これから男女平等社会実現への戦略について討論された。

この中から、ひろってみると……(敬称略)アービング(米)「経済的平等、差別撤廃の運動は女性の差別をなくす運動につながる。」グーナテラケ(スリランカ)「民衆の運動が根ざさない限り、女性の望む状態は達成されないと思う。」

スマイル(米)「男性もいっしょに。全米女性機構では男女一緒に運動している。」

上野千鶴子(日本)「意識を変革するのは若い人の教育以外、絶望とおもっている。」

私の女性学の受講生は、もっとはやく女性学をやっていたら、違った進路を選択出来たといっている。大学へきてきくのはおそい。小・中・高校から女性学を教え、しかも男性にも聞かせる教育が行われるべきだ。」

司会、縫田暉子「それに関連して、きのうの討論を傍聴された方たちから『日本の学校

では、家庭科の女子必修をやめ、男女共修を進めるべきだ』との手紙が寄せられたこともつけ加えておきます」——等々の発言があった。

註 共修をすすめる会の会員の投稿

会場には、男性の姿もめだち、若い人の参加が多かった。

男女平等実現のためには、男性も、女性もアタマの切かえが必要。それには、「教育」「マスコミ」の役割が大きいのに、この問題は、あまり討論されなかった。家庭科についてもあれだけでは物足りない。文化人の方々に、教育、家庭科についてもっと関心をもってもらおうはたらきかけの必要を感じた。

本橋 靖子

東京都主催
女と男で創る21世紀

東京都は、「女と男で創る21世紀1975↓1985↓2001」というコミュニケーションションの場を11月11日に有楽町マリオン朝日ホールに設けました。私はこの第二部(午後6時〜9時)のコミュニケーション「女、男世代をつなぐ」に参加しました。パネリスト

に、吉田真由美（映画評論家）、山本コウタロー（パーソナリティ）、島村泰子（ツアーコンダクター）、島村誠（教師）、東恵美子（俳優）、南博（社会心理学者）の3カップルの各氏、司会は樋口恵子氏。

ライフパートナーとして、関心は持つけれど干渉はしないをモットーに35年目の東さんと南さんのお二人。男の子二人に炊事、洗濯掃除を仕込み、今年すでに110日間中国に出かけていた泰子さんと、小学校の先生の誠さん。このお二人だけが入籍しておられるとか。テーブルからお箸にいたるまで、すぐに別れるように所有者を決め、二人共有の物を持たない吉田さんと山本さん。

家庭科の男女共修については、フロアーから、筑波学園都市で一週間たい焼きを三食食べ、体をこわした男性研究者の話や、小さいうちから学校で家庭科を共修にしたほうがよいという意見、中学校の領域別指定、高校の女子のみ必修を問題にした男性の発言もありました。山本さんからは、共修でよいと思うが、それに反対して、「家庭科より受験勉強をさせてほしい」という母親が多いのではないかという感想も出されました。

大西 歩

国際婦人年をきっかけとして
行動を起こす女たちの会
学校は
いつもボーイファースト
変えよう男から始まる出席簿

諸外国では学校の名簿は男女込みのアルファベット順。日本でも大学では男女こみの名簿なのに、ほとんどの小中高は男が先なのはなぜか。今年ナイロビでアンケートをとった当会の会員でもある中嶋さんの外国人からのアドバイスも含めた報告や、同会が行った高校での実態調査報告があった。男女別になっている理由に体育家庭科が男女別だからというのがあった。本当にそうなのか。それよりも男より先に女がいることを問題だとする男教師の意識が大きな要因だという報告。アメリカでは体育も男女一緒だったという留学経験を持つ高校生の発表。そこで家庭科が男女共修になれば名簿だって分ける理由がない。ところでその家庭科は現在どのような状況にあるのかを報告した。家庭科の検討会議報告を教課審が引き継いだ訳であるが、この報告は男女同一課程にすることだけを決めており、私達が願っている必修を折込んでいく訳

女子だけ割烹着?!

桜井 陽子

「エーッ／＼どーしてッ／＼」と、思わず口にしたのは、一五〇人はいたであろう母親の中で、私だけ。一斉に視線がこちらに走る。

中一の娘の学年父母会の席のことだ。家庭科の調理実習で女子生徒は白い割烹着、男子生徒はエプロンでいいことにしている、というのだ。

もちろん「ハイッ、質問／＼」と手をあげた。私の「なぜ 女の子だけに」の問いに答えて若い家庭科の女の先生は「男子が家庭科を習うのは一年だけ（女子は三年）。割烹着を買わせるのはもったいないから」と言う。

再び「ハイッ、質問／＼」私は週に何度も台所に立つがエプロンで不便はない。なぜわざわざ白い割烹着を女の子だけに着せるのか。この間、母親たちの間からは「いいじゃないねえ。割烹着ぐらいで騒がなくても」の声がザワザワと聞える。教師の返事はこうだ。「女の子は他人が着ているものすぐに欲しがります。同じものに決めた方が華美にならないです」テメエッ

続いて立った教頭は「これは差別ではない

ではないから、どうしても一案（家庭科の中の科目だけの選択必修）になるように働きかけなければならなし、一案になったとして家庭科の科目からの選択ということは家庭一般の重要性が生かされるとは限らないし、国会での文部省答弁を拾ってみると男子向き家庭科が出てきて、進路指導と称するやり方で結局男女別の授業が行われる可能性があること。今後は一案採用の働きかけと内容のチェックが重要な点であると話した。（11/2）

石川 由紀

日本婦人問題懇話会

フォーラム⁸⁵

ゆれ動く現代——女たちの明日を考える

ゆれ動く現代——女たちの明日を考える⁸⁵フォーラムは、「いま、女の解放とは」（十一月二日（出）、「家庭、家族のゆくえ」（十一月十六日（出））のテーマで、日本婦人問題懇話会主催により、東京都婦人情報センターにおいて開催されました。各回とも男女を含めて約一〇〇名の参加者をまじえて熱心な討論が展開されました。

第三回目は、「新しい家庭のすがた」と題

のです。そのところ誤解しないでほしい」とわざわざ。ナマツ差別でないと、と手をあげかけたとなん、司会の母親がすかさず「じゃあ、時間もきましたから」で閉会宣言。抜群の連携プレーだ。それにしても、なぜ母親の中から同じ声が出ないのか。

家に帰って娘に言う、と、「オーオー、おばさんもうやるなあ」「で、あなたはどうするの」「オレは、エプロンで頑張るゾ。割烹着なんて、嫌いだからなあ」

丸刈り校則の判決が今日でた。娘も頑張るさけるかなあ……。

新しいパンフをどうぞ

新しい段階の運動に対応する共修問題入門用のパンフレットが来年早々にできます。どうぞご利用ください。

共修の意義についての一問一答、共修の授業の例、内容案、女子差別撤廃条約を始めとする共修運動の支えとなる各種資料の抜粋などを含め、なぜ共修にすべきか、共修でどんなことをやるのかが誰にもわかるように編集しました。

題は家庭科、なぜ共修？ どんな共修？

A5版 48ページ 定価三〇〇円

家庭科はへらすべき？

—技術科関係者の考え方—

持田 ナミ

「家庭科教育に関する検討会議」が、家庭科の女子のみ必修をはずす報告を出してから、教育における男女平等に欠かせないのは、女子にも技術教育、職業教育を男子と平等に保障することであると技術科側の発言が、誌上や研究会などで多くなってきたように思われる。

「報告を出してから」という言い方は、誤解をまねくかも知れないが「家庭科の男女共修をすすめる会」は十年前から、全国組織で署名運動・請願・研究会・学習会・運動のためのパンフ、出版活動とできる限りの方法で家庭科の男女共修運動をすすめてきた。

また家庭科教育研究者連盟では、二十年前から家庭科の男女共学を提唱し、実践の積上げと運動を結びつけ、多くの出版物も出てきた。

このようなことと比較すれば「報告を出してから」と思えるのである。

9月24日には「技教研」「手労研」「産教連」合同で「前略—義務教育における技術教育の充実およびその男女「同一」の教育課程」の即時実現を強く要望するものである」という声明を出している。

「技教研」代表委員の原正敏氏は、今夏長野県で開かれた教育科学研究会「技術と教育」分科会で次のような発言をした。

◆家庭科の授業を半減させることを強く要望する。家庭科関係者は視野が狭い。男女役割分担意識を変えるために、家庭科が有効というのはい方のだ。

◆「検討委員会」報告の2案を支持する。

◆家庭科共修論者は、技術教育の共学の道を考えていない。家庭科の男女共修だけを一方的に言うことはまちがっている。

◆女性の職業上の地位の向上が男女平等のきめてである。それには技術教育・職業教育が必要。

◆女性の大学進学の方法をかねて男女差をなくすことが先決、家政系の学部や学校は減らすべし。などと外国の資料や新聞の投書などをひきあいにしているの発言であった。

「家庭科教育に関する検討会議」の委員であった鈴木寿雄氏は、技術教育を私はこう考えるというシンポジウム（昭和60年4月4日）

で、今後の課題として次のようなことを言っている。

◆小学校の家庭科の改組をし、技術・家庭科にしたい。

◆高校の勤労体験学習で職業の教科でしている学校は十八・四割になっているが、これを「技術一般」のようなかたちにしていきたい。

◆家庭科の男女共修論への対応—家庭一般を必修にするならば、技術一般も6単位程度必修にすべきであるという考え方で委員として努力した。

◆情報・電子文明時代にふさわしい内容領域の研究

このシンポジウムで、山西謙二氏は「家庭科と分離して独立すべきである」と、技術教育と家庭科教育を二教科論の立場で発言していた。

世話人会報告

△十月五日▽秋号の発送作業をしながら—
●日本大会について

48団体の準備状況をきき、売店を出すことと分担金について決定。

●一〇・一九集会について

展示するもの、宣伝方法、時間配分、配布資料を決定、運動の提案について検討。

●会報冬号発行スケジュール決定。

●次の集会について

テーマについて話し合い、責任者を決定。

●江田五月さんの事務所から「文部省の話をきくようにしては」と提案があったのでだんどりをお願いすることにしました。

●いわゆるスパイ防止法について

母親連絡会からのよびかけに応じて請願書を出すことにしました。（当会は運動の目標を家庭科共修にしぼっていますが、この法律ができれば運動にさしつかえるので）

●教課審委員に関して情報を交換。

（梶谷 典子）

△十月十二日▽

新パンフについて集中的に検討

●見積 A5 48ページ二〇〇〇部で37、38万円（原価約二〇〇円で三〇〇円定価か）

△十月十九日▽

集会「二〇〇〇年にむけて 私達の戦略」の直後食事をしながら

●集会で出された新たな署名活動について、用紙は五千枚印刷し、教課審の動きを考えて来年三月をめどに署名を集める。

●48団体日本大会（11/22）について、当日の参加者確認と、準備進捗状況と会の仕事分担について

●10/26に予定されている江田五月氏との面会について、文部省からの同席もあるのので要請する事柄を検討。（江田氏の都合で十月二十六日は流れ後日に持ち越し）
（芦谷 薫）

△十月二十六日▽

●一問一答パンフの検討も大詰めになりました。

◆カリキュラムは「高校（長野・京都家教連・共修をすすめる会）、中学（家教連、共修をすすめる会）」きまりました。その他一、二交渉中です。

◆表紙の色はカラシ、ピリッとしまるよう。

◆表題、原案を編集長（青山）に一任。

◆ページだての検討。

●国連婦人の10年最終年日本大会について、「教育」の発表の内容・方法、当日の役割分担について話し合いをしました。

スライド・劇・インタビューなどの意見が出ました。
（持田 ナミ）

△十一月十二日▽

●主に11月22日開催の国連婦人の10年日本大会について話し合う。当日、会の参加予定者10名。割り当てられた役割の分担、寸劇の配役決定。

●名古屋の溝口さんから本をつくるために、会の資料提供や、アンケート回答、原稿依頼があった——梶谷さん担当。

●高校長会家庭部会報66号の紹介が和田さんから。（16ページ参照）

●家庭科教育学会が6日に発表した「家庭科教育'85 21世紀に向けて」について半田さんから。（5ページ参照）
（馬場 洋子）

△十一月二十四日▽

時間をかけてパンフについて検討しようとお弁当を持って集まりました。

●情報

◆去年の高等学校PTAの「家庭科の履修形態存続」に抗議する二万九千人の署名が提唱者関さんによってPTA会長に手渡されました。（詳しいことは次号に）

●全国高校長協会家庭部会の動きが積極的になってきた。「現代家庭」「生活一般」という新しい科目をつくり、「家庭一般」と並べて選択必修にするという案を出してそれに対する現場の意見を集めています。一応「男女いっしょに」ということですが、「男子向」「女子向」という考え方も含まれているようです。（16ページ参照）

●決定したこと

◆次の集会は総会といっしょに。

◆教課審委員・国会議員への連絡の分担。

●パンフレットの検討。

授業の例と表紙、目次など。

（梶谷 典子）

校長会のホンネ？！

梶谷 典子

全国高校長協会家庭部会の機関誌「家庭部会報第66号」には、理事長を退任した古松彰さんと副理事長を退任した藤井敏子さんのあいさつが載っていますが、ともに従来の家庭科がよいという考えのようです。

「男女平等は、理論としてはまことに結構ですが、女子の家庭科教育がレベルダウンしない歯止めが必要です。学校教育のみでなく家庭教育をより良くするために、実践的な家庭科が大切なことはいまでもありません」と古松さん。

そして藤井さんは、共修をすすめる会が小

・中・高の一貫性を無視して高校だけを問題にしているという誤解に基づいて会を批判、それに古松さんと同じく実習にたいへんこだわっている様子です。更に「男女のそれぞれが家庭生活について異った学習からの協力こそ家庭を豊かにし、中広い人間形成に役立つのではなからうか」「家庭における男女の役割の分担は、どのような社会になっても行われるであろうし、協力してよりよい家庭づくりが出来るようになってほしいものである。『男女共修』にのみこだわらず、履修をすすめてほしい」と、伝統的な男女の役割分担を変えたくないというホンネをあきらかにしています。

事務局長の桜井隆道さんもホンネは女子差別撤廃条約の精神に反対なようで、「男子の

共修運動を始めた時、私に賛同第一号の便りを速達で下さった方。敗戦後の新生家庭科のリーダーとして、岐阜にその人ありと知られた方。ここ十五年は、私費を投じて知恵おくれの娘さんの自立のために授産施設を作り、全力を傾注されて来た方。

尾藤操さんを悼む

「会」の世話人として活躍された方が、十月十六日燃え尽きて七十三才の生涯を閉じられました。枕元のバッグには、会報「秋」号が、85年をふり返る会の案内記事の日付はペンで囲んでありました。

半田たつ子